

平成30年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況点検及び評価

宮城県教育振興基本計画

～志を育み、復興から未来の創造へ～

目指す姿

学校・家庭・地域の強い絆のもとで、多様な個性が輝き、ふるさと宮城の復興を支え、より良い未来を創造する高い志を持った、心身ともに健やかな子供が育っています。

そして、人々が生きがいを持って、生涯にわたり、多様に学び、交流する中で、豊かな文化と活力のある地域社会が形成されています。

目標

- 1 自他の命を大切にし、高い志と思いやりの心を持つ、心身ともに健やかな人間を育む。
- 2 夢や志の実現に向けて自ら学び、自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む。
- 3 ふるさと宮城に誇りを持ち、東日本大震災からの復興、そして我が国や郷土の発展を支える人間を育む。
- 4 学校・家庭・地域の教育力の充実と連携・協働の強化を図り、社会全体で子供を守り育てる環境をつくる。
- 5 生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる地域社会をつくる。



◆ 大河原町教育振興基本計画 ◆

「笑顔」「元気」「学び」

～ 志を高め 学び継ぐ ひとつづくり ～



大河原町の教育振興を図るためには、地域・家庭・学校・行政がそれぞれの役割を担いながら、連携・協働し、それぞれの世代や立場に必要な人材を育成していく「ひとつづくり」が不可欠になっています。

そのために大河原町教育振興基本計画では、全ての町民が、「笑顔」で「元気」に「学び」続けられる町を目指し、「生涯学習の姿」「家庭・地域の姿」「子供の姿」「学校・教職員の姿」と対象を明確にするとともに、「ひとつづくり」の実現に必要な施策と具体策・目標値を示しています。これにより教育関係者ならびに、広く町民の理解と協力を仰ぎ、共に学び・高め合うことをねらいとしています。

◆ 目指す姿

1. 生涯学習の姿 生き生きと学ぶ町民
2. 家庭・地域の姿 明るい家庭 支える声が響く地域
3. 子供の姿 笑顔があふれ、元気いっぱい、学力を向上させる子供
4. 学校・教職員の姿 信頼される学校・教職員

◆ 教育委員会の充実

2015年4月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正」により、大河原町では2016年度に「新しい教育委員会制度」がスタートしました。このことにより教育委員会は、さらなる教育の政治的中立と教育行政の安定性を確保し、多様化している町民のニーズに応えながら教育・文化の振興に努めるとともに、会議の公開など、開かれた教育委員会をいっそう推進します。

また、教育委員会事務局においては、教育行政における基本方針や重点施策をふまえ、家庭・地域・学校への支援や教育環境の整備・充実に取り組みます。さらに、事務の管理及び執行状況の点検・評価を的確に実施し、常に改善に努め、信頼される教育行政を実現します。

大河原町の教育の基本的方向と平成 30 年度重点的取組

1. 生涯学習の姿 【目標】生き生きと学ぶ町民

◆基本的方向 1 持続可能な生涯学習の拠点整備

施 策

- (1) 町民が生涯にわたり楽しく学べる環境づくり
- (2) 「誰でも、いつでも」学べるセーフティネットの推進（学習拠点・居場所づくり）
- (3) 公民館・図書館等を活用した学習拠点づくり

主な具体策

- ①中央公民館を起点とした「にぎわい創出」の事業展開
- ②「絵本と学びのへや」を中心とした図書館事業展開
- ③「放送大学」を活用した、生涯にわたって学び続ける機会の提供
- ④金ヶ瀬公民館を拠点とした金ヶ瀬地区の未来型コミュニティづくり

平成30年度重点的取組

施 策	(2)「誰でも、いつでも」学べるセーフティネットの推進（学習拠点・居場所づくり）
主な具体策	②「絵本と学びのへや」を中心とした図書館事業展開 ③「放送大学」を活用した、生涯にわたって学び続ける機会の提供
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な生涯学習の拠点整備の一貫として、平成 29 年度に整備した「絵本と学びのへや」の利用促進を図る。特に子育て世代の保護者とその子供に焦点を絞った事業を展開し、子育ての不安解消や学ぶ土台づくりを行う。 ・学びエリアに平成 30 年度オープン予定の「放送大学」コーナーで「誰でも、いつでも」生涯学習の拠点として学ぶ機会の提供を行う。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第2土曜日に「絵本のお話し会」、第4日曜日に「おおがわら星空さんぽ」事業を実施し、特に子育て世代の保護者とその子供たちへの絵本や自然へのふれあいの機会を設け、同時に関連図書の貸出の増加、「絵本と学びのへや」の利用促進を図る。 ・放送大学コーナー設置により、放送大学生以外の町民の方々にも、広く学べる機会を提供し、一貫した教育の町の実践を目指していく。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017 年度)	達成値 (2018 年度)	目標値 (2022 年度)
1	「生涯学習の充実」に対する満足度（5段階評価）	3. 1	—	3. 5
2	中央公民館年間来館者数	30、435人	10、883人	33、500人
3	金ヶ瀬公民館年間来館者数	11、084人	8、696人	12、200人
4	貸出資料数	70、025点	75、177点	75、000点
5	「絵本と学びのへや」年間来館者数	—	13、799人	15、000人
6	放送大学利用者数	—	72人	300人

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「絵本と学びのへや」について、読み聞かせボランティアと司書が行う「お話し会」、プラネタリウムを活用した「おおがわら星空さんぽ」の事業を毎月行ったほか、随時イベントを開催し、来館したくなる図書館づくりができた。また、絵本のへやスペースの利用人数は、絵本のへや9、785人で、月平均815人（昨年度と同程度）、学びのへや4、014人で、月平均334人（昨年度より約6割増）の利用状況となった。 ・「放送大学宮城学習センター大河原視聴学習室」は、平成31年1月より放送授業のインターネット配信による視聴も可能となり、利用内容が拡張された。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「放送大学」については、PRを近隣市町まで行い、認知度を上げることが課題。教員など、キャリアアップのための周知を行っていく。 		
内部評価 B		A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
外部評価 A	<p>□「持続可能な生涯学習の拠点整備」を掲げての取り組みは、時代に対応した視点からの取り組みで評価できる。子どもから大人までの広い範囲の生涯学習の場づくりとして環境整備を手掛けている事には展望が見える。2020年に向けた目標値に向かって達成できること、放送大学のより有効な活用を期待する。</p> <p>◇学校の外でも町民が学べる場所として、図書館事業の中で、絵本のへやの利用数が増えていることは評価できる。星空さんぽや読み聞かせなど、今後さらに企画を充実させながら継続推進してほしい。例えば、虫や鳥、草花、岩石などを通して自然とのふれあいができるように、星空さんぽの内容を拡大し展開できないか。</p>		

◆基本的方向 2 伝統文化・芸術活動等の推進

施策

- (1) 文化財や伝統文化等の保存・継承
- (2) 芸術文化に親しめる環境づくり

主な具体策

- ⑤文化財の適切な保護と普及啓発のための事業推進
- ⑥無形文化財保持団体の活動の場の拡大
- ⑦えずこホールとの連携による芸術文化事業の推進
- ⑧常設展示施設（千本桜記念館（仮称））を確保し、町の歴史に思いを寄せ、町民意識を育む。

平成30年度重点的取組

施策	(2) 芸術文化に親しめる環境づくり
主な具体策	⑤文化財の適切な保護と普及啓発のための事業推進 ⑧常設展示施設（千本桜記念館（仮称））を確保し、町の歴史に思いを寄せ、町民意識を育む。
目的・目標	町内の自然、風土、歴史、文化的遺産等の文化財を未来の子供たちに継承するとともに、貴重な学習資源ととらえ、学校の体験学習や生涯学習など、幅広い教育活動に活用する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財や伝統文化等の保存、継承と整備を行い、積極的に活用促進していく。 ・文化財保護委員の協力を得ながら、文化財資料のデジタル保存に向けて検討していく。 ・常設展示場設置に向けて、段階的に検討をしていく。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2018年度)	目標値 (2022年度)
1	「文化・芸術の振興」に対する満足度（5段階評価）	3.3	—	3.5
2	民俗資料収蔵室年間来館者数	242人	263人 (8%増)	20%増加
3	芸術文化事業 青少年小劇場・青少年劇場小公演の実施	実施	実施	継続して実施
4	はたらく館への来場者数	—	—	250人
5	学芸員の配置	—	—	1人

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財包蔵地の保護協力を努めてた。 また、老朽化した史跡標柱の修繕を行い整備を図った。 ・昆虫標本を保存している「はたらく館（旧検察庁）」の改修整備を図った。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土芸能保存団体の後継者の育成。 ・貴重な文化財資料の消失等に備えるため、デジタル化の予算確保。 ・はたらく館を常設展示施設にするには、現在ある昆虫標本を半分くらいに整理し、新たな展示スペースの確保が必要である。現在の展示スペースだけでは狭すぎる。（消防法により展示スペースが限られるため） 									
内部評価 B	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="359 573 592 607">A</td> <td data-bbox="592 573 1380 607">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 607 592 640">B</td> <td data-bbox="592 607 1380 640">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 640 592 674">C</td> <td data-bbox="592 640 1380 674">目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 674 592 719">D</td> <td data-bbox="592 674 1380 719">目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った	
A	目標を上回って達成した									
B	目標をほぼ達成した									
C	目標をやや下回った									
D	目標を下回った									
外部評価 B	<p>□文化財や伝統文化の保存、継承のための環境づくりとしては、物的整備のみならず、町民が親しみ、関心をよせられる働きかけが求められると思う。いかにして町民へ文化財の価値観を受け止めさせるか、伝統文化の貴重さを理解させるかの働きかけの工夫が求められる。</p> <p>□町民への関心と理解を求める機会の増設も一考だと思う。例えば、遺跡等でスマートフォンの機能を利用し、VRやARで昔の風景や情報が見られるような方策をとってはどうか。</p> <p>◇町民の文化財や遺跡の保護や標示は、よく整備されていて評価できる。</p> <p>◇今後、文化財のデジタル化を図り、以前より予算化に努めることは大いに推進すべきである。</p> <p>◇『はたらく館』の活用は工夫が必要だが、何とか実現に向けて取り組んでほしい。昆虫標本については、常設展示の工夫が必要である</p>									

◆基本的方向3 スポーツ振興による健康増進の推進
施 策

- (1) スポーツ、レクリエーション活動による健康づくり
(2) 総合型地域スポーツクラブ設立に向けての取組

主な具体策

- ⑨総合型地域スポーツクラブ設立に向けての取組
⑩町民レクリエーション大会の実施
⑪夏休み小学生スポーツ大会の実施
⑫大河原クロスカントリー大会の実施
⑬地域コミュニティ強化のための行政区スポーツレクリエーション活動奨励事業の補助金交付
⑭スポーツ少年団の育成と活動の支援
⑮学校体育施設開放と活用の推進
⑯体育施設の効率的な維持・管理
⑰体育協会の活動支援

平成30年度重点的取組

施 策	(2) 総合型地域スポーツクラブ設立に向けての取組
主な具体策	⑨総合型地域スポーツクラブ設立に向けての取組
目的・目標	年代や経験に関係なく、複数のスポーツが楽しめる「総合型地域スポーツクラブ」の創設を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> 生涯スポーツ社会の実現を図るため、子供から高齢者まで誰もが、興味・関心・技能レベルに応じていつでも参加できる、「総合型地域スポーツクラブ」の創設支援を目指す。 事務局体制を支援し、誰でもが参加出来て、楽しめる種目と場所、時間、講習会、負担金等運営内容を具体的に検討していく。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2018年度)	目標値 (2022年度)
1	「スポーツの振興」に対する満足度(5段階評価)	3.3	—	3.5
2	体育施設(総合体育館及び東部運動場)の年間利用者合計	116,058人	105,122人	122,000人
3	学校開放の年間利用団体合計	64団体	60団体 (-6団体)	70団体

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブの創設に向け、会議や研修会への出席をはじめ、各種団体への周知を行い、創設に向けての支援を図った。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブの創設に至らない（管理者・指導者・受け皿がない）ため、推進のための創意工夫が課題となっている。 ・事業数に対し、施設が不足である。（学校開放、体育協会、NPO の事業） ・総合型地域スポーツクラブに対するスポーツ関係団体の認知・理解が不足しているため、今後理解をいただくための研修会等の開催が必要と考える。 									
内部評価 C	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="359 539 592 577">A</td> <td data-bbox="592 539 1375 577">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 577 592 616">B</td> <td data-bbox="592 577 1375 616">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 616 592 654">C</td> <td data-bbox="592 616 1375 654">目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 654 592 685">D</td> <td data-bbox="592 654 1375 685">目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った	
A	目標を上回って達成した									
B	目標をほぼ達成した									
C	目標をやや下回った									
D	目標を下回った									
外部評価 B	<p><input type="checkbox"/>スポーツ振興による健康増進として総合型地域スポーツクラブの設立に向けた具体策を示したことを評価したい。</p> <p><input type="checkbox"/>地域の特性に左右されるものの長年の課題であることから、総合型地域スポーツクラブのメリットについて（時代的背景を含めて）の理解を図る工夫・マイナスの要因の解明・解決策を更に深めて行く事が必要と思われる。今後の検討を期待する。</p> <p>◇総合型スポーツクラブが設置できていないことは残念である。管理者と指導者などの受け皿となる人材を発掘したり育成したりすることに今後も努力してほしい。</p> <p>◇中学生の部活動を補助できる人材派遣システムを構築していくことも課題の一つと考える。</p> <p>◇本町では、地域でのつながりが年々うすくなっているようだ。総合型スポーツクラブは、はたして大河原町で目指すべきか。中学生の部活動支援ボランティアをまとめるなど、目に見える仕組みをまずつくって、できることからやる方向も検討してよいのではないか。</p>									

2. 家庭・地域の姿 【目標】 明るい家庭 支える声が響く地域

◆基本的方向4 学校・家庭・地域との協働による教育の推進

施策

- (1) 地域学校協働活動、コミュニティ・スクール体制の構築
 (2) 各種団体等と連携した地域で子供を育てる体制づくり

主な具体策

- ⑱ コミュニティ・スクール構築に向けた、学校教育支援の推進
 ⑲ ボランティアバンクの再整備とよりよい運用
 ⑳ 放課後子供教室事業による子供の居場所づくりの推進
 ㉑ 子供会育成会連絡協議会の活動支援

平成30年度重点的取組

施策	(1) 地域学校協働活動、コミュニティ・スクール体制の構築
主な具体策	⑲ ボランティアバンクの再整備とよりよい運用 ⑳ 放課後子供教室事業による子供の居場所づくりの推進
目的・目標	保護者や地域住民等が、子供を育てていく当事者として学校運営に参画し、学校と地域の人々が一体となり、地域全体で教育を支援する体制づくりに取り組む。
重点的取組	・PTAや地域による学校運営への協働と参画しやすい環境づくりなど、体制づくりを目指していく。 ・地域連携担当者や地域コーディネーターと連携を図りながら、学校と地域の橋渡しとなれるよう、地域の連携を深めながら、地域全体で教育を支援する体制づくりの基礎固めに取り組んでいく。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2018年度)	目標値 (2022年度)
1	地域学校協働本部の設立	—	—	2020年度 までに設立
2	新ボランティアバンク設立	—	設立	2018年度 より運用
3	ボランティアバンク登録者数 (個人・団体)	206名	見直し精査を実施 47名	100名
4	コミュニティ・スクール体制の 確立	—	—	5校
5	放課後子ども総合プランの推進	2校 (南小・金小)	3校 (全小学校)	3校 (全小学校)

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアバンク登録者数の再整備を行った（通算活動人数：881人）。 ・町内の小中学校において、幅広い地域住民の参画により、地域住民で未来を担う子供たちの成長を支え、学校運営における大きな力となった。 ・地域の教育資源を活かした効果的な協働活動が展開され、「開かれた学校」への具現化が図られた。 ・地域連携担当職員会議を年2回（8月・2月）開催。地域と学校の意見交換及び相互連携が図られた。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPOへの業務委託（南小放課後子ども教室）について、客観的な事業評価の継続。 ・NPO、大学、民間企業との連携を、放課後子ども教室だけではなく、他事業にも展開し、より幅広い内容を提案していく。 ・地域と学校が連携及び協働し、大人も学び合い、つながりを深められるような活動を今後も推進する。 ・個別の活動から「総合的・ネットワーク化」へと発展させるために、「地域学校協働本部」の組織化が必要である。 									
内部評価 B	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="359 815 592 853">A</td> <td data-bbox="592 815 1372 853">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 853 592 891">B</td> <td data-bbox="592 853 1372 891">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 891 592 929">C</td> <td data-bbox="592 891 1372 929">目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 929 592 958">D</td> <td data-bbox="592 929 1372 958">目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った	
A	目標を上回って達成した									
B	目標をほぼ達成した									
C	目標をやや下回った									
D	目標を下回った									
外部評価 B	<p>□学校・家庭・地域との協働による教育の推進としての基本的方向を基に取り組んでいる具体策が見えて期待感が持てる。</p> <p>□近い将来の学校教育の求められている方向性に向けた事業の対策の一環として取り組んでいる姿が見えて評価に値する。</p> <p>□学校に目を向けさせる、学校にとっては、地域の協力が必要とのことなど、地域と家庭と学校が一体となって、学校教育への視点を共有できる組織づくりにさらなる活動が必要です。</p> <p>◇これまでの「ボランティアバンク」の見直しは大いに評価できる。実態をしっかりと把握して今後の活動計画づくりに活かしてほしい。</p> <p>◇コミュニティ・スクール体制の確立と充実のためには、学校現場と地域の両方をよく知り、つなぐことができるコーディネーターが必要である。</p>									

◆基本的方向5 家庭・地域の学びや活動の支援

施策

- (1) 家庭教育、子育て世代等の学び支援
- (2) 各種関係機関と連携した支援体制の整備

主な具体策

- ②学校や保育園、幼稚園等を対象とした家庭教育講座の開催
- ③駅前図書館を利用した家庭教育支援事業
- ④家庭教育支援ネットワーク本部(仮)の創設
- ⑤子育てサポーター、家庭教育支援チームの活動の場の拡大、活動支援

平成30年度重点的取組

施策	(2) 各種関係機関と連携した支援体制の整備
主な具体策	⑤子育てサポーター、家庭教育支援チームの活動の場の拡大、活動支援
目的・目標	子供を地域全体で育むために、家庭と地域、学校をつなぐ仕組みをつくり、協働による教育活動をとおして、家庭、地域の教育力の向上を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援を行う、子育てサポーター養成を積極的に行い、活動支援の体制を整えていく。 ・地域学校協働活動の推進による連携強化を行い、きめ細かい支援と学習機会の提供を行い、子供たちがのびのびと育まれる居場所づくりを目指していく。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2018年度)	目標値 (2022年度)
1	家庭教育講座実施数	12講座	16講座	15講座
2	大河原子育てサポーター「笑」会員数	10名	18名	15名
3	家庭教育支援ネットワーク本部(仮)の創設	—	—	2020年度までに創設
4	「絵本と学びのへや」での家庭教育事業	—	—	実施

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子育て親育ち講座」を通し、家庭における教育力の向上、保護者間の情報共有と交流機会を提供した。 ・子育てサポーター養成講座の実施による子育て支援活動、サポーター活動の周知と関心の喚起を図った。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後増加が予想される無認可保育所と託児所等に対する講座の実施、内容の検討と精査。 ・子育てサポーターへの情報提供と連携。 ・子育てサポーターの活動機会、場の拡大を通し、子育て支援活動の更なる啓発を図る。 		
内部評価 B		A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
外部評価 B	<p>◇少子化に向かう現状では、子育てサポート体制のさらなる充実は欠かせない。サポーターの養成はこれまで以上に重要である。若いおとうさん、おかあさんに喜んでもらえることをぜひ企画してほしい。</p> <p>◇参加者同士のつながりを大切にしながら、声掛けを繰り返し、勧誘を絶えず実行していくことが必要である。</p> <p><input type="checkbox"/> 施策として、家庭教育の充実、子育て世代の学びの支援を掲げているための具体策、目標が読み取れるが方策とその実践が明確に確認できない面がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭・地域の声に応える場の設定に一層の対策を期待する。</p>		

◆基本的方向6 地域の発展につながる多様な学びの提供
 施策

- (1) 現代的かつ社会的課題に対応した社会教育事業の展開
 (2) 各種団体やボランティアの育成と活用の推進

主な具体策

- ②6 公民館事業・教室参加者の満足度向上を目指す事業推進
 ②7 ジュニア・リーダーの育成と活動支援
 ②8 青年会活動への助言と活動支援
 ②9 地域資源（人的・物的資源）を生かした昆虫展の充実
 ③0 高齢者のための生きがいづくり事業の推進
 ③1 町民文化祭の充実と文化協会の活動支援
 ③2 市民団体（NPO等）との協働・活動支援

平成30年度重点的取組

施策	(1) 現代的かつ社会的課題に対応した社会教育事業の展開
主な具体策	②6 公民館事業・教室参加者の満足度向上を目指す事業推進 ③1 町民文化祭の充実と文化協会の活動支援
目的・目標	地域の学習拠点として、さまざまなニーズや実態を把握し、公民館のもつ機能の有効利用をはかるとともに、地域に密着した公民館運営を推進する。
重点的取組	・時代のニーズ、住民ニーズに沿った新たな事業運営が出来るような公民館を目指していく。 ・複合化された新しい公民館を十分に活用できるような事業展開を計画し実践していく。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2018年度)	目標値 (2022年度)
1	講座からの新規社会教育団体の発足	—	—	2団体
2	新規NPOの発足	—	—	1団体
3	ジュニア・リーダーの会員数	18名	20名	25名
4	社会教育事業アンケート評価 満足度	—	—	増加

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度は、中央公民館リニューアル工事（大規模改修工事）のため実施行事数が大幅に減ったため、利用者数が大幅に減った。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、修繕工事が発生した場合、事業開催等に対する影響を最小限に留めたい。 中央公民館主催事業をリニューアル工事前の事業数に戻し、利用者数の増加を図る。 文化協会主催事業への支援を強化し、利用率を上げる。 	
内部評価 C	A B C D	目標を上回って達成した 目標をほぼ達成した 目標をやや下回った 目標を下回った
外部評価 C	<p><input type="checkbox"/> 目標指数を重点取組施策と関連性のある表示にお願いしたい。</p> <p><input type="checkbox"/> 中央公民館リニューアル工事に関わる公民館活動へのマイナス要因は大きかったことは理解できるが、基本方向に関わる重点施策、具体的方策の明示と関連した実践の成果を明示してあれば理解しやすい感がある。具体的方向を明示して、今後も努力してほしい。</p> <p>◇中央公民館の改修工事で使用できなかった団体によっては、別会場の方が使いやすかったとの声もある。これまで以上に利用していただけるようにより一層工夫することが必要である。</p> <p>◇町民文化祭等で参加者が減っているの、参加者数の増減とは違う観点から考える必要があるのではないか。</p> <p>◇ジュニアリーダーの人数が増えていることは評価したい。今後はシニアリーダーの活用などの期待したい。</p>	

3. 子供の姿 【目標】笑顔があふれ、元気いっぱい、学力を向上させる子供

◆基本的方向7 【笑顔】豊かな心の育成

施 策

- (1) 夢を育む「志教育」の推進
- (2) 命を大切にする教育の推進(道徳教育、防災教育)
- (3) 「共に学ぶ」特別支援教育の推進(インクルーシブ教育)
- (4) 歴史や文化に関する教育の推進
- (5) 読書活動の推進

主な具体策

- ③1/2 成人式や立志式、先輩に学ぶ会の実施、おおがわらの先人集の活用による夢や志の育成
- ③4道徳の教科化の趣旨に基づく、確実な学習の実施と道徳的实践力の育成
- ③5防災訓練等を通じた自助・共助の実践力の育成
- ③6早期発見早期支援事業による適切な就学指導の充実 ・合理的配慮・基礎的環境整備
- ③7町教員補助員によるきめ細やかな支援の充実
- ③8おおがわらの先人集、おおがわらの暗唱読本、社会科副読本事業の継続と改訂
- ③9学校司書補助員、駅前図書館、暗唱読本を活用した「読書のすすめ」

平成30年度重点的取組

施 策	(1) 夢を育む「志教育」の推進
主な具体策	③1/2 成人式や立志式、先輩に学ぶ会の実施、おおがわらの先人集の活用による夢や志の育成
目的・目標	夢や志をもち、将来に向かって切磋琢磨するたくましい児童生徒を育成する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科「道徳」や総合的な学習の時間、学校行事等を通じて夢や志をもち、それを高める児童生徒を育てる。 ・中学生「まちづくり夢・未来会議」を開催し、次代を担う中学生に町への誇りをもたせるとともに、町づくりに参画する意識を育てる。

施 策	(2) 命を大切にする教育の推進(道徳教育、防災教育)
主な具体策	③4道徳の教科化の趣旨に基づく、確実な学習の実施と道徳的实践力の育成
目的・目標	特別の教科「道徳」の授業を通じて、他者とともによりよく生きる子供を育成する。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科「道徳」の実施に向けた教員の指導力向上を図り、「考え、議論する道徳」を実践する。 ・適切に道徳の学習を実施し、またその評価について研修を深める。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017 年度)	達成値 (2018 年度)	目標値 (2022 年度)
1	全国調査「児童生徒質問紙」将来の夢や目標を持っていますか。(「当てはまる」の割合)	小 78.3% 中 44.3%	小 78.4% 中 45.9%	小 80% 中 50%
2	全国調査「児童生徒質問紙」自分にはよいところがあると思いますか。(「当てはまる」の割合)	小 52.7% 中 21.9%	小 43.2% 中 28.4%	小 60% 中 30%
3	就学相談体制の確立と実施	—	—	2018年度開始
4	おおがわらの先人集、おおがわらの暗唱読本、社会科副読本の改訂	先人集('15) 暗唱読本('16) 社会科副読本('13)	社会科副読本改訂	先人集('21) 暗唱読本('21) 社会科副読本('18)
5	町内小中学校図書貸し出し数の増加	79,013冊	81,662冊 (3.4%増)	20%増加

成果課題等	《成果》		
	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科化により、小学校で「考え議論する道徳」の取組が見られるようになった。 ・中学生「まちづくり夢・未来会議」を教育委員会主催で実施した。各学校から出された案を集約し、グループごとに提案することができた。またその意見からクロスカントリー大会でのボランティア活動などにつながり、生徒の町づくりへの参画意識を高めることができた。 ・全国学力・学習状況調査の生徒意識調査から中学生の自己有用感の高まりが見られた。このことが学力調査の結果にもつながっていると考えられる。 		
	《課題》		
	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の評価について、町全体で研修し共通理解を深めたが、今後は学期ごとの評価の在り方、令和元年度より教科化された中学校での評価および通信票での表記の仕方についてさらに検討する必要がある。 ・読解力の基礎となる読書を勧めてきた。図書の貸出が微増したが、中学生の貸出数が低かった。司書教諭や町司書補が連携し、図書室利用の改善等が必要である。 		
内部評価		A	目標を上回って達成した
B		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
外部評価	<input type="checkbox"/> 資料の作り方はよいが、それに沿った目標指数のより具体的内容の明示があればより理解が図れる感がある。多少指標・目標のずれと実践成果の不一致感も感じる、もう少し考えて関連性のある明示をお願いしたい。 <input type="checkbox"/> 大筋は実践成果としての努力は大いに評価したい。		
B	<input type="checkbox"/> 志教育や道徳教育の中で将来への夢を抱いたり自己有用感が高いことにつながったりしていることは評価できる。 <input type="checkbox"/> 中学生「まちづくり夢未来会議」は取組として評価できる。小学生代表も入れ、小中一緒に行う子ども未来会議にしてはどうか。 <input type="checkbox"/> 白石川の清掃活動に小中学生がもっと参加する体制はつくれないか。例えば小・中学生時代に1回ずつ参加するようにしてはどうか。		

◆基本的方向8 【元気】健やかな身体の育成

施策

- (1) 「はやね・はやおき・あさごはん（ルルブル運動）」等による生活習慣の定着
- (2) 学校給食を中心とした食育の推進
- (3) 体力向上への取組の推進

主な具体策

- ④〇「明日青のつどい」による健全育成体制の継続
- ④①新給食センターの活用や栄養教諭による学校訪問指導による食育の充実
- ④②町陸上大会、部活動等を通じた体力・運動能力の向上

平成30年度重点的取組

施策	(1) 「はやね・はやおき・あさごはん（ルルブル運動）」等による生活習慣の定着 (3) 体力向上への取組の推進
主な具体策	④〇「明日青のつどい」による健全育成体制の継続 ④②町陸上大会、部活動等を通じた体力・運動能力の向上
目的・目標	中1ギャップなどによる不登校や学校不応が課題であることから、生活習慣の改善とともに、何事にも最後まであきらめることなく取り組むことができる「たくましい」子供の育成に努める。
重点的取組	・「明日青のつどい」や学校生活等を通じて、自他を認め合い、自己肯定感・自己有用感を高めるための取組を行う。 ・「たくましい」児童生徒を育成するため、町内小中学校で各教科や行事等で独自の取組「自分でやり抜くタイム（たくましタイム）」を位置づける。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2018年度)	目標値 (2022年度)
1	全国調査「児童生徒質問紙」朝食を毎日食べていますか	小 85.0% 中 83.1%	小 84.5% 中 80.8%	小 90% 中 85%
2	全国調査「児童生徒質問紙」ゲーム・携帯時間(2時間以上)の縮減	小 21.9% 中 36.6%	小 18.9% 中 24.4%	小 20% 中 30%
3	給食残食量の縮減	約120kg/ 1日	73.6kg/ 1日(38.7%減)	20%減
4	全国体力・運動能力テストの総合評価A・B合計の割合 全国との乖離をプラスにする	小男 -9.3 女 -5.2 中男 +10.4 女 +7.7	小男 +0.6 女 +7.5 中男 -2.9 女 +4.4	小 男女とも ±0 中 +0以上継続

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明日青のつどい」でのトークフォークダンスや「まちづくり夢・未来会議」の中学生提言の実現、県・町の算数チャレンジ・数学オリンピックでの活躍等を通じて、児童生徒が認められる機会が増え、自己肯定感や自己有用感を高めることができた。 ・目標指標では、児童生徒の「ゲーム・携帯等の使用時間」が減少し、目標値を達成した。また給食の残食量についても目標値を達成した。今後も栄養教諭による食育の授業等を通じて、バランスのとれた食事について啓発したり、家庭学習の時間確保について家庭と連携したりし、継続的な呼びかけや確認を実施する。 ・平成 30 年度の全国体力・運動能力調査の結果は、中学生男子を除いて全国との乖離がプラスとなった。今後も当町児童生徒の体力・運動能力を維持・向上するため令和元年度は仙台大学と連携した体力づくりの取組を実施する。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境の変化や家庭での価値観の変化により、児童生徒の生活習慣の乱れや虐待などの事案が発生している。学校、地域、家庭、行政が連携して今後も見まもる必要がある。 									
内部評価 B	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="359 779 590 817">A</td> <td data-bbox="590 779 1372 817">目標を上回って達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 817 590 855">B</td> <td data-bbox="590 817 1372 855">目標をほぼ達成した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 855 590 893">C</td> <td data-bbox="590 855 1372 893">目標をやや下回った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="359 893 590 922">D</td> <td data-bbox="590 893 1372 922">目標を下回った</td> </tr> </table>	A	目標を上回って達成した	B	目標をほぼ達成した	C	目標をやや下回った	D	目標を下回った	
A	目標を上回って達成した									
B	目標をほぼ達成した									
C	目標をやや下回った									
D	目標を下回った									
外部評価 B	<p><input type="checkbox"/> 基本的方向 8 の施策の内容からすると「健やかな身体の育成」ではなく、「心と体の育成」にすべきではないか。</p> <p><input type="checkbox"/> 児童・生徒の学校生活における体力づくりの意識化に努力が見られる。子供が自ら活躍できる場の設定を今後お願いしたい。</p> <p><input type="checkbox"/> 健全の育成のため様々な方策を推進していることがよく見えて素晴らしい。</p> <p>◇健康な心と体の育成のために今最も大事なことは、生活習慣、特にゲーム機の使用制限大河原ルール各家庭での順守である。学校家庭と一緒に推進し、浸透してきていることは評価できる。</p> <p>◇給食の残量が大きく減っていることは、評価できる。新センターになってもアレルギー対策と共に推進してほしい。</p> <p>◇児童虐待についての発見と通報システムの周知徹底や情報の共有、関係者との連携も改めて見直しをかけ、実際に機能できるように常に点検していくことが必要である。</p>									

◆基本的方向9 【学力】確かな学力の育成

施策

- (1) 基礎的・基本的な学習の充実
- (2) 活用する力を育成する取組の推進
- (3) 言語力の育成・言語活動の充実
- (4) 国際理解教育、情報通信教育の推進

主な具体策

- ④③学力向上策「3本の矢」の継続による基礎学力の定着
- ④④全国学力・学習状況調査の全国平均正答率を上回るための方策
- ④⑤おおがわら算数チャレンジ・数学オリンピック事業の継続と他教科への発展
- ④⑥暗唱読本等を活用した言語活動の充実
- ④⑦外国語教育充実に向けたA L T配置の継続と活用の充実
- ④⑧I C T教育への先進的取組（タブレットP Cの配置促進）

平成30年度重点的取組

施策	(4) 国際理解教育、情報通信教育の推進
主な具体策	④⑦外国語教育充実に向けたA L T配置の継続と活用の充実 ④⑧I C T教育への先進的取組（タブレットP Cの配置促進）
目的・目標	外国語教育の充実、情報通信教育の推進により、子供たちが次代をたくましく生きるための素地を育てる。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・移行期間における小学校「外国語活動・外国語」の授業を適正に実施するとともに、A L Tを有効に活用した授業展開を行う。 ・外国語活動の充実に向け、A L Tの配置体制の見直しを図る。 ・タブレットP Cの配置を推進することで、児童・生徒の「主体的で深い学び」を促進させ、学力向上の一助とする。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2018年度)	目標値 (2022年度)
1	全国調査A問題の平均正答率の乖離をプラスにする(国語、算数・数学の乖離平均)	小 +4.8 中 -5.5	小 +4.1 中 -0.6	小 +0以上継続 中 ±0
2	全国調査B問題の平均正答率の乖離をプラスにする(国語、算数・数学の乖離平均)	小 +4.8 中 -4.2	小 +3.9 中 +1.5	小 +0以上継続 中 ±0
3	算数チャレンジ・数学オリンピック事業の継続・発展	実施	継続実施	理科・英語等での 取組実施
4	A L T招致人数	2人	2人 (民間委託)	3人
5	I C T機器の整備状況	児童生徒6.2人 に1台	児童生徒4.5人 に1台	児童生徒3人 に1台

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J E Tプログラムによる A L T配置終了に伴い、町内 2 名の A L Tを民間委託に移行した。また外国語活動・外国語担当者会を設置し、委託業者と連携した町内小学校教員および中学校英語科を対象とした授業力向上研修会を実施した。 ・平成 30 年度に町内教員へのタブレット PC の配置が完了し、授業でのタブレット利用が日常的に行われるようになった。 ・全国学力学習状況調査において、平成 30 年度も小学校では全国平均を上回ることができた。また中学校においても全国平均との乖離は小さくなり、全国同等となった。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町標準学力調査 12 月の結果で、学力の低下が見られそのひとつの要因として、タブレットの使用により、文章をしっかりと読み、理解することが不十分だったとの意見があった。各教科・単元における I C T機器の効果的な活用について研究・検討する必要がある。 ・小学校における外国語活動・外国語科の本格実施に向けて、現状の A L T2 名体制では配置が困難である。また現状で、中学校英語は 4 時間に 1 回ほどの A L T配置であることから、A L Tの増員が必要である。 		
内部評価 A		A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
外部評価 A	<p>□特に具体策④⑧への取り組みの成果と示されている。ICT 活用がオールマイティでない面もしっかり把握して、そのデメリットを理解した上で活用する工夫が大切だと思う。新しい時代に向けた教育の実践策に敬意を表す。なお、目標・指標に具体策を連携した内容の表示を望みます。</p> <p>◇学力の水準が高いレベルを維持できていることは、大いに評価したい。先生方の努力によるところが大きいと考えられるが、家庭の協力も大きいのではないか。</p> <p>◇英語教育も本格化に伴って、ALT の活用法、先生方の要望、子どもの声もしっかり受け止めて取り組んでほしい。</p>		

4. 学校・教職員の姿

【目標】信頼される学校・教職員

◆基本的方向10 学校組織力の向上

施策

(1) チーム学校による創意・活かに満ちた学校づくりの推進

(2) 保・幼・小・中連携教育、異校種間連携の推進

(3) 学校・保護者・地域による学校評価の推進

主な具体策

④9カリキュラム・マネジメントによる開かれた教育課程の推進

⑤0新学習指導要領実施に向けた、学校体制の確立

51 幼・保・小連携による接続カリキュラム、スタートプログラムの作成

52 学校評議員制度の充実とコミュニティ・スクール体制の構築 ⇒生涯学習との連携

平成30年度重点的取組

施策	(1) チーム学校による創意・活かに満ちた学校づくりの推進
主な具体策	⑤0新学習指導要領実施に向けた、学校体制の確立
目的・目標	新学習指導要領により教科化された「特別の教科道徳」や小学校で新設された「外国語活動・外国語」等の適切な実施に向け、教職員の指導力・資質の向上を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「特別の教科道徳」、小学校における「外国語活動・外国語」の実施に向けた校内体制を確立する。 ・町内教職員研修において、「特別の教科道徳」「外国語活動・外国語」に関する研修会を実施する。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2018年度)	目標値 (2022年度)
1	学校評価アンケートによる「各学校の「よく当てはまる」の回答」の全平均率	34.1%	34.7%	45%
2	町内英語・外国語担当者会、研修会の実施	—	H30.8月実施	2018年度
3	接続カリキュラム、スタートプログラムの作成・実施	—	—	実施
4	コミュニティ・スクール体制の確立	—	H30.7月 研修会実施	5校

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度の重点的取組の「特別の教科道徳」「外国語活動・外国語」に関する町内教職員研修会を実施し、教職員の指導力向上や体制整備につなげることができた。平成 31 年度（令和元年度）においても外国語活動・外国語科に関する研修を継続して実施する。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクールの体制づくりについては、生涯学習課において既存のボランティア・バンクの再整備やコミュニティ・スクール設置に関する研修会を実施した。地域学校協働本部設立に向け、学校評議員等既存の組織を生かした具体的な取組が必要である。 接続カリキュラム、スタートプログラムの作成については、町教育振興事業の幼・保・小連絡会担当を中心に協議し、検討していく必要がある。 		
内部評価 B		A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
外部評価 B	<p><input type="checkbox"/> 新学習指導要領実施に向けた組織力の向上を掲げての成果が示されていることは指導體制づくりへの前向きな姿勢を示すものとして評価できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 道徳教育、英語教育への組織としての体制づくりは待ったなしの状況である。より充実した体制づくりに期待する。関連してコミュニティ・スクールについても同様である。一步先行く取組に期待する。</p> <p>◇喫緊の課題について全員で研修することは必要なことだが、実施方法や内容を工夫し、本当に指導力向上につながる研修会になるようにできないか。 例えば、自分たちが課題を選んでグループをつくって研修をすとか。</p> <p>◇未就学から小学 1 年生へ、小学 6 年生から中学 1 年生へ移行するとき、接続をうまくすることが大事であり、小・中の先生の連携が必要である。お互い日常の授業を確認し合うことや小中間の教職員人事交流などにより理解を深めながら行ってほしい。</p>		

◆基本的方向 1 1 教職員の資質・指導力の向上

施策

- (1) 町内教職員研修の充実
- (2) 校内実践研究の推進と各種研修機会提供の充実
- (3) 教職員の多忙軽減の推進

主な具体策

- 53 町内教職員研修の継続実施、県総合教育センター等研修への積極的参加の推進
- 54 ICT機器等の整備、部活動支援による業務改善
(校務管理システム、緊急時連絡用留守番電話の設置等)

平成30年度重点的取組

施策	(3) 教職員の多忙軽減の推進
主な具体策	54 ICT機器等の整備、部活動支援による業務改善
目的・目標	教職員の働き方改革の一助として、ICT機器の導入及び活用を推進し、業務の改善・軽減を図る。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・町内小学校教員全員へタブレット端末を配置し、教員のICT機器操作のスキルアップを図る。 ・ICT活用研修会を適時実施し、教員のICT活用スキルの向上を目指す。また、活用状況について把握しメリット・デメリットについて検証を行う。 ・町内小中学校に留守番機能付き電話を設置し、不要不急の業務の削減を行う。 ・非接触ICカードによる出退勤システムを本格稼働し、教職員の勤務状況を正確に把握し、業務の改善を行う。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2018年度)	目標値 (2022年度)
1	学校における教育の情報化の実態等に関する調査「教員のICT活用指導力の状況」(わりにできる)	14.9%	23.3%	30%
2	時間外勤務の縮減 (各校種1日あたりの平均時間)	小1時間54分 中3時間20分	小2時間42分 中3時間31分 ※2月末	20%縮減
3	ICT校務管理システムの普及率	20%	2020年度導入に向け準備中 ※大小・大中で試用開始	100%

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標指標の「教員の ICT 活用指導力の状況」に伸びが見られた。教員全員にタブレット PC を貸与したことにより ICT 機器の授業での活用が進んだ。 ・教職員の働き方改革に向けて配置した留守番電話は非常に有効で、保護者による夜間の不要不急の連絡が無くなった。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IC カードによる出退勤システムにより、教職員の勤務状況が正確に把握できるようになった。その結果、昨年度の現状値(推定)よりも時間外勤務時間が長いことが明らかになった。国・県より年間の勤務時間外の指標が示されたことから、さらなる業務改善を行う必要がある。 	
内部評価 B	A B C D	目標を上回って達成した 目標をほぼ達成した 目標をやや下回った 目標を下回った
外部評価 B	<input type="checkbox"/> 教職員の多忙軽減策の推進の成果がみられ評価できる。 <input type="checkbox"/> ICT 活用による資質の向上や働き方改革に向けた実践にその成果が見られたことは意義深いことである。今後、より大きな成果が得られることに期待する。 <input type="checkbox"/> 部活動の支援として、外部指導員の配置について積極的に取り組むべきと考える。 <p>◇長すぎる勤務時間の解消は、今後さらに力を入れて取り組むべき重要課題である。学校現場で、1つずつでも、少しずつでも取り組めることがあればやってみる。そして、反省しながら改善していくことが必要である。</p> <p>◇教職員の働き方改革について取り組んでいることを評価したい。IC カードによる出退勤時刻の把握、音声メッセージ付留守番電話採用など、目に見える取組となっているのがよい。</p>	

◆基本的方向 1 2 安心して学べる教育環境づくりの推進

施策

- (1) いじめ・不登校対策、教育相談等の充実
- (2) 学び支援のためのセーフティネットの構築（就学援助、育英・奨学金等）
- (3) 学校危機管理体制の充実（防災教育）
- (4) 家庭・地域への情報発信の推進
- (5) 教育施設の適切な維持・管理と適切な運用

主な具体策

- 55 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー活用の充実
- 56 おおがわら子供の心のケアハウス事業の継続
- 57 各種援助・支援等の適正受給
- 58 安全担当主幹、防災主任による学校危機管理マニュアルの整備、防災訓練、体制の確立
- 59 学校だより、ホームページ、緊急メール配信、広報おおがわら等による積極的な情報発信
- 60 学校施設の老朽化対策と少子化に伴う施設の適切な運用についての検討

平成30年度重点的取組

施策	(1) いじめ・不登校対策、教育相談等の充実
主な具体策	56 おおがわら子供の心のケアハウス事業の継続
目的・目標	「おおがわら子供の心のケアハウス」を継続して運営し、不登校に悩む児童生徒、保護者の不安を軽減するとともに、復帰に向けた学力の保障を行う。
重点的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・心のケアハウスの安定した運営を継続し、児童生徒の学力の保障を軸とした、学校復帰を目指す。 ・心のケアハウスと学校との連携をさらに密にし、不登校の予防と早期対応を目指す。 ・補助事業3年目以降の運営について検討するとともに、補助終了後の方向性についても検討を開始する。

施策	(5) 教育施設の適切な維持・管理と適切な運用
主な具体策	60 学校施設の老朽化対策と少子化に伴う施設の適切な運用についての検討
目的・目標	安心安全な学校給食を提供するため、老朽化した学校給食センターに代わり、新センターの建設を推進する。
重点的取組	・新学校給食センターの建設を進めまたその運営方法等について整備を行う。

★目標指標

	指標の内容	現状値 (2017年度)	達成値 (2018年度)	目標値 (2022年度)
1	おおがわら子どもの心のケアハウス事業の継続	県補助事業による実施	県補助事業により継続	町独自財源による継続実施
2	町内小中学校の不登校者出現率の縮減	小 0.15% 中 4.14%	小 0.92% 中 4.87%	小 0%に近づける 中 3%以下に
3	各学校区における地域連携防災訓練の実施満足度	34.9%	30.7%	40%
4	学校評価アンケートによる「学校からの情報提供等」（各学校のよくあてはまる等の項目）	41.5%	42.1%	50%
5	建設40年を経過する学校施設の大規模改修・長寿命化の実施	40%	次年度大中体育館着手	60% 大中体育館等

成果 課題等	<p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心のケアハウスの運営については、本事業を県が令和8年まで延長することを決めたことから、その期間中は補助を延長して実施する。しかしながら徐々に補助割合が減少することが考えられたため、町独自財源での継続実施についてあらかじめ検討する必要がある。 ・新給食センターの建設は順調に進んでおり、進捗状況は令和元年7月現在90%を超えている。8月の開所を目指し、ハード、ソフト面での確認を進めている。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は小中学校ともに不登校者の出現率が上昇した。特に小学校は、家庭環境の急激な変化により不登校になるケースが増えており課題となっている。今後もケアハウスや別室登校など子どもたちの居場所づくりに注力する必要がある。 ・新給食センター開所後、大河原中学校体育館の改修等に着手する予定である。 ・築40年を経過する建物が複数有り、各学校施設の改修計画（長寿命化計画）の作成が求められている。長寿命化計画は今後、国の補助事業の採択要件にもなっており、早期の策定が必要である。なお、長寿命化計画では、今後の学校全体のあり方を総合的に考え、統廃合も含めた整備を考える必要があります。 	
内部評価 B	A B C D	目標を上回って達成した 目標をほぼ達成した 目標をやや下回った 目標を下回った
外部評価 B	<p>□物的環境づくりには、多大な予算が伴いますが待てない環境づくりがある。関係部署への理解を図り、早急に対策に取り組む必要がある。その重要性かつ必要性については、日頃から把握し、具体化に向けて推進することが大切である。本施策の内容については、時宜に合った取り組みと受け止め評価する。</p> <p>□心のケアハウスの事業継続等については理解を図り、実践の継続を期待したい。安心して学べる教育環境づくりに一層の努力に期待する。</p> <p>◇今もっとも真剣に受けとめなくてはならないのは、いじめ問題への対応を考えることである。不登校への対応と違って子どもの命の問題に直結するからである。</p> <p>◇まじめで純粋で感受性の強い子どもほど学校生活の中でプレッシャーを感じ、暮らしにくくなっている。そのことを自覚しながら子どもと向き合うように委員会として学校を指導し、サポートしてほしい。</p>	